

日蓮大聖人の言葉から学ぶ：散りし花もまた咲きぬ
落ちし葉もまたなりぬ

心を結ぶ本泉寺通信

Musubi

Vol.14
2026
お盆号



暑中お見舞い
申し上げます

盂蘭施餓鬼盆大法要

法要日 8月9日(日)

時間 14時より

卒塔婆 一体4千円

経木塔婆供養を執り行います
ご希望の方はご連絡下さい

経木塔婆 一体 五百円



● 見えないご縁に支えられて
私たちは普段、自分一人の力で生きていくように思いがちです。けれども、毎日の食事一つをとっても、多くの命や人々の働きに支えられています。

お米を育てる人、魚を獲る人、運ぶ人、売る人。さらに言えば、太陽の光や雨、大地の恵みまでもがあって、初めて私たちは今日を生きることができます。

仏教では、このような数え切れない「ご縁」によって生かされている姿を大切に説きます。施餓鬼法要はただ亡き方をご供養するだけの法要ではありません。飢えや苦しみの中にあるすべての存在へ供養を捧げ、自分自身もまた「分け与える心」を育てる大切な修行です。

「施(ほどこし)」とは、特別なことではありません。優しい言葉をかけること。誰かを思いやること。感謝を忘れず手を合わせること。その心そのものが仏さまへの供養となります。

ご先祖さまへ感謝を捧げるとともに、今こうして生かされているご自身、いのちを見つめ直すひとときとなれば幸いです。

本年新盆をお迎えになるご家族は必ずご参列ください
お塔婆は八月一日までにお申し込みください

本泉寺開山四百年慶讃浄財奉納者芳名

令和8年3月

納入順

二口 旭川市 井出健一様 一回目 計二口

令和8年4月

納入順

二口 テラヨガ有志一同様 一回目 計二口

引き続き皆様のご協力をお願い致します。

勸募期間 令和九年十月十二日まで
勸募金額 一口壹万円より

奉納者芳名

五回目

三郷市 恩田孝一様 計十口
八潮市 山田成利様 計五口

四回目

八潮市 恩田勝廣様 計三十三口
八潮市 恩田一夫様 計十二口
八潮市 緒方智恵子様 計四口

三回目

渋谷区 平野猛文様 計二十四口

株式会社サンライズ

富士見市 杉山 淳様 計四口

二回目

有限会社ゴトウコンベヤー

流山市 後藤慎介様 計十口

株式会社ミユキ東京企画

流山市 後藤幸美様 計六口

八潮市 恩田 操様 計四口

三郷市 藤原 守様 計三口

八潮市 滝口義則様 計二口

八潮市 津谷一安様 計二口

一回目

美浦村 山口朝三様 計九口

八潮市 滝口勝四郎様 計三口

八潮市 恩田隆二様 計三口

石川塗装株式会社

越谷市 石川智淳様 計二口

足立区 横山菊枝様 計三口

春日部市 高橋真典様 計二口

足立区 恩田明広様 計二口

足立区 和田好央様 計二口

朝霞市 川端 登様 計一口

葛飾区 恩田富美枝様 計一口

三郷市 山後和義様 計一口

墨田区 恩田 博様 計一口

八潮市 井郷福治様 計一口

草加市 板津由起様 計一口

草加市 板津満知様 計一口

松伏町 後藤ミユキ様 計一口

松伏町 高田伊豆美様 計一口

三郷市 齋藤よしの様 計一口

株式会社フェアリケア

柏市 中田元茂様 計一口

草加市 小原幸恵様 計一口

八潮市 武井雪珍様 計一口

合計百五十九口

令和八年七月一日現在

いま、あらためてお釈迦さま

仏の心は法華経へと受け継がれる

菩提樹の下において覚りを開かれたお釈迦さまは、その真理を胸に留めるだけでなく、人々に説き示す道を歩まれました。人生には苦があり、その苦には原因があり、そして苦を超える道がある。この教えは、多くの弟子たちによって受け継がれ、やがて經典として結実してゆきます。

その長い仏法流伝の歴史の中で、とりわけ「すべての人に仏となる尊い命が具わっている」と明かしたのが『法華経』でした。日蓮大聖人は、この法華経こそ末法の人々を救う大法であると説かれます。今号では、お釈迦さまの覚りが、どのように今日まで伝えられてきたのかをたどりながら、仏法のいのちにあらためて耳を傾けてみましょう。

しよてんぼうりん

#06 初転法輪 初めて説かれた教え



初転法輪図

鹿野苑において、はじめて仏法が説かれる。

苦 菩提樹の下において覚りを開かれたお釈迦さまは、その真理を人々に伝えるべきかを思索されたといえられていきます。しかし、苦しみの中に生きる人々を導こうとの大悲の心から教えを説く決意を固められたお釈迦さまが最初に向かわれたのは、かつて共に修行をした五人の修行者たちの住む地鹿野苑（ろくやおん）でした。

この鹿野苑において、初めて仏法を説かれた出来事を「初転法輪」といいます。ここに仏教団の第一歩が記されました。このとき説かれた中心の教えが「四諦」です。人生には苦がありその原因を滅すること安らぎへ至る道がある、と説かれました。また、その実践として「八正道」が示されます。これらは単なる思想ではなく、人が迷いを離れ、智慧を開き、正しく生きるための実践の道です。こうして仏法は弟子たちによって受け継がれ、二千五百年を経た今もなお、人々の心を照らし続けているのです。

#07 仏法の広がり 教えは人から人へ



如來說法図

教えを受け継いだ仏弟子が各地へと弘めてゆく

鹿 野苑における初転法輪の後、お釈迦さまの教えは弟子たちによって次第に広がってゆきました。智慧と慈悲に満ちたその教えは多くの人々の心を動かし、出家者だけでなく在家の人々にも深く受け入れられていきます。お釈迦さまは特定の階級や身分に限ることなく、あらゆる人々に平等に法を説かれまして。王侯貴族から庶民に至るまで、誰もが仏法に触れ、救いの道を求めることができました。そこには、人は皆、仏の道歩むことができるといふ、お釈迦さまの大いなる慈悲がありました。お釈迦さま滅後にはその教えを正しく後世



#08 法華経 すべての人に仏のいのち

へ伝えるため、弟子たちによつて経典の結集も行われました。こうして仏法はインドからアジア各地へと広まり二千五百年を経た今日まで、脈々と受け継がれてきたのです。

おは、釈迦さまの教えの中で多くの経典として説き伝えられてゆきました。その中でも『法華経』は、お釈迦さまの教えの真意を明かす経典として、古くから大切に受け継がれてきました。

法華経の大きな特徴は、「すべての人に仏となる尊い命が具わっている」と説くところにあります。これを「一切衆生悉有仏性」といいます。

身分や立場、能力の違いに関わらず、誰もが仏の道を歩み、成仏することができる——この教えは、数多くの人々に大きな希望を



法華経

すべての人に仏のいのちを説く

与えました。

また法華経では、お釈迦さまは遠い過去にすでに成仏され、衆生を導くためにこの世に姿を現された久遠の仏であることが明かされます。

仏は過去の存在ではなく、今もなお私たちを見守り、導き続けてくださる存在であると説かれるのです。

法華経は、苦しみ多き現実の中にあつても誰もが「仏のいのち」を持つ尊い存在であることを時代を超えて教えているのです。



#09 日蓮大聖人と法華経

戦乱や災厄、人々の不安が広がる世にあつて、日蓮大聖人は、「人々を真に救う教えは何か」を深く求められました。

そして、数ある経典の中でも、法華経こそがお釈迦さまの真実の教えであると確信されます。

日蓮大聖人は、法華経にて説かれる「久遠の釈尊」を信仰の中心に据え、末法の世を生きる人々に「南無妙法蓮華経」のお題目を弘められました。

この題目をお唱えすることは、法華経の功德を身に受け、お釈迦さまの慈悲と智慧に触れる道であるとい説かれたのです。

また大聖人は、仏法とは単に祈りや願いに留まるものではなく、苦しみや迷いの中にあつても、自らの命の尊さに目覚めより良く生きてゆくため

の道であるとも示されました。

お釈迦さまより始まった仏法は、法華経へと受け継がれ、さらに日蓮大聖人によつて、私たちの時代に生きる教えとして明かされました。今もなお、お題目の声の中に、お釈迦さまの慈悲は脈々と息づいているのです。



日蓮大聖人像

法華経を弘め、題目への道を明かされる

● 仏教用語豆知識

【四諦】したい

苦・集・滅・道の四つの真理
仏教の根本教説として重視される。

【八正道】はつしょうどう

正しい見方・生き方を説く八つの実践徳目。
正見・正思维・正語・正業・正命・正精進・正念・正定。

〈連載〉

本泉寺見仏記
ぞうちょうてん

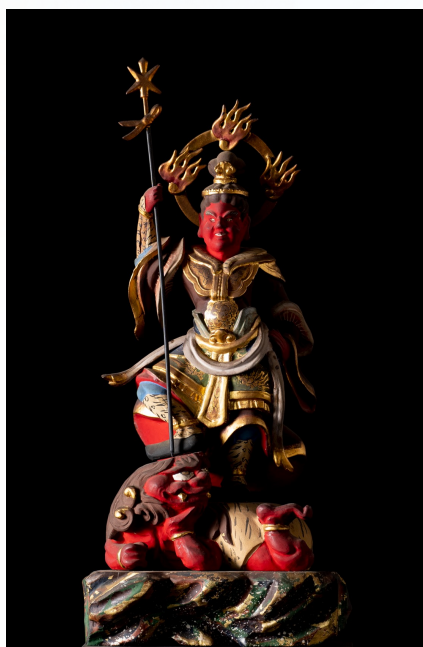
増長天

第11回

我れ増長天王、諸の眷属と共に、常に随逐して

守護し、善根を増長し、諸の衰患を遠離せしめん。

『金光明最勝王経』



増長天立像

像高 三十六糎

恵了院日頭上人造像

善心育成の天王

増長天は、仏教における四天王の一尊で、南方を守護する護法善神である。

「増長」とは、善根や功德、仏道を求める心を増し育てることを意味し、その名のとおりに、衆生の善き心を養い、仏法を弘める働きを象徴する天王である。

古来より、五穀豊穰や国家安穩を守護する存在として尊崇され、中国・日本へと仏教の伝来とともに広く信仰されてきた。經典では、『金光明最勝王経』や『仁王護国般若波羅蜜多経』にその名が説かれ、正法を受持し、

經典を誦誦・供養する者を守護し、善根を増長して諸々の災難や衰えを遠ざけることを誓願している。

増長天王の功德は、財福や繁栄のみを意味するものではなく、信心や徳行を育て、正しい道へと導くところに大きな意義がある。

日本では、四天王信仰の広まりとともに寺院の本堂や四天王門に安置され、五穀豊穰、家内安全、開運招福などの守護神として広く信仰されてきた。また、生命力を育み、物を成長させる象徴として、人々の暮らしと深く結びついている。像容は甲冑を身にまとい、右手に宝棒や剣を持

ち、左手に宝塔や戟を携える姿が一般的である。その勇壮な姿は邪悪を退ける威徳を示すとともに、仏法と人々の善き心を守り育てる慈悲の働きを表している。善根を増し、仏道を護り、社会と国家の安穩を守ると誓った増長天王を拝することは、私たち自身が日々の暮らしの中で善い行いを積み重ね、心を育てていく歩みにつながるのである。本泉寺の増長天像は、第十九世恵了院日頭上人が四天王の一尊として勸請開眼した像である。明治二十年の本堂火災の際には、宗祖日蓮大聖人の尊像と共に檀信徒によって本堂より運び出され、火難を逃れている。

お寺の掲示板

● 歴代上人位牌 新調のご報告 ●

本泉寺は令和9年に開山400年の佳節を迎えます。この度その慶讃事業の一環として、開山上人以来、第25世までの歴代住職上人の位牌を新たに調製いたしました。

位牌は、単に御名を記したのではなく、歴代上人方の御苦心と御教化の歩みを今に伝える、当山の法脈そのものであります。四百年という長い歴史の中で、法灯を護持し、壇信徒各家の先祖と共に寺門を支えてこられた先師への報恩感謝、そして、その尊い歩みを次代へと伝えていきたいとの願いも込められております。今後も歴代上人方の遺徳を偲びつつ、開山以来の法灯を未来へと受け継いでまいりたいと存じます。

どうぞご参詣の折には、歴代位牌にも合掌いただければ幸いです。



旧歴代上人位牌



新歴代上人位牌

日蓮大聖人の言葉から学ぶ

ち はな さ
散りし花もまた咲きぬ

お このみ
落ちし葉もまたなりぬ

【千日尼御返事】

これは日蓮大聖人が、夫を亡くされた佐渡の信者である千日尼に送られたお手紙の一節です。

春になれば花はまた咲き、秋には実もなります。

月もまた昇り、季節は変わらず巡っていきます。

けれども、亡き人だけは帰ってこない——その悲しみに、日蓮大聖人は深く寄り添われました。

そして「法華経を心の支えとして信心を貫いて

いけば、必ず霊山浄土で再び会うことができる」と励まされたのです。

悲しみの中にあっても、信心は私たちの心を支え、生きる力となります。今を大切に生きること

その積み重ねが、未来への希望につながっていくのです。

日蓮大聖人のお言葉は、時代を超えて、今を生きる私たちの心にも静かに語りかけてくださっています。

きる私たちがの心にも静かに語りかけてくださっています。

七月以降の年中行事

○盂蘭盆施餓鬼会大法要

八月 九日（日）午後二時

○秋季彼岸会法要

九月二十三日（水）正午

○宗祖日蓮大聖人御会式

十月十二日（月）午後二時

○開運大黒祭

八月十八日（火）午後二時

十月十七日（土）午後二時

茶坊主の 小部屋

●今年に入って神社仏閣の火災のニュースが世間を賑わせている。当寺も明治二十年に本堂と庫裡を焼く大火に見舞われたが、その再建の労苦たるは筆舌に尽くし難いものがある。天災ならば致し方ないが当寺でも一層の防火に努める所存である。



第15号は令和8年冬発刊の予定です

発行



HONSENJI

日蓮宗 妙福山 本泉寺
埼玉県八潮市二丁目1472-1

TEL:048-996-9843

FAX:048-999-1884

mail:info@honsenji.jp